

令和2年度 市長施政方針

2月20日(木)から開催された「令和2年第1回半田市議会定例会」の冒頭において、榊原市長が示した施政方針の主な内容を掲載します。

【問合わせ】 企画課 ☎84-0605



昨年末のニュースにおいて、日本の国内出生数が急減し、国の研究機関の予測よりも早いペースで少子化・人口減が加速している状況であると伝えられました。

本市の人口は、近年、若干増加はしているものの、出生数は、やはり国と同様、減少傾向です。

人口減少は、その対策について未だ誰も解を見いだせないでいる問題ですが、悲観的になり、単なる縮小論に陥るのではなく、想像力と推進力をこれまで以上に発揮し、次々とチャレンジを続けることが、明るい未来のまちづくりにつながる唯一の方法だと信じています。

現在策定を進めています第7次総合計画においても、行政のみならず、市民や民間事業者、大人から子どもまで、誰もが新たなチャレンジをすることで、これまで以上に「住みたいまち」、「住み続けたいまち」としていくことを目指します。

重点分野である「防災・減災」、「教育・子育て」、「観光振興」を始めとした、令和2年度の主な取組をご紹介します。

防災・減災

今後発生が予想される大規模な災害から命を守るためには、住んでいる地域で想定されるリスクの認識、家庭や地域における備蓄の準備、初期対応

など、事前にできる備えの水準を高めることが重要です。

そのため、津波災害警戒区域や洪水浸水想定区域の指定に伴う各種ハザードマップの作成のほか、障がいのある方やお年寄り等の要配慮者のための仮設スロープ、乳児が避難した際に必要となる液体ミルク、避難生活での健康維持に効果がある口腔ケア用品を整備します。

また、自分自身の防災行動をあらかじめ時系列で整理しておく「マイ・タイムライン」の作成を、小学生や中学生への指導からはじめ、各家庭へ広めていきます。

重要なライフラインである上水道については、耐震性の高い配水管への布設替えだけでなく、管路網の見直しにより被災時の復旧の迅速化も図ります。

また、浸水被害対策の要となる北浜田排水ポンプ場の耐震化、東成岩排水ポンプ場の高潮対策に取り組みます。

さらに、ゲリラ豪雨への備えとして、ため池のはけ口に改良を加え、雨水調整機能を高めることで、浸水被害の軽減を図ります。

防災・減災対策は、各家庭での日頃からの備えが重要です。家具の固定や備蓄品の準備はもちろんのことですが、自治区へ加入することで、ご近所同士の安否確認や助け合いがスムーズにできることが期待できます。自治区に未加入の方は、ぜひとも加入いた

きますようお願いいたします。

教育・子育て

子ども医療費助成を高校生等まで拡大し、子育て世帯の保護者の経済的負担を一層軽減するとともに、早期及び適正な受診機会の確保による子どもたちの健康の保持増進を図ります。入院費だけでなく、受診機会の多い通院費も含め高校生等まで対象とする本市の制度は、県内でも先駆的です。

さらに、クラシティブの子育て支援センター利用時の駐車料金について、無料駐車時間を現行の1時間から2時間へ拡大し、さらなる利用促進を図ります。

保育園、幼稚園、こども園については、老朽化した施設の更新に併せ民営化やこども園化を進め、年度途中に発生する低年齢児の待機児童対策はもとより、保護者のニーズに応じて選択することができ、より質の高い幼児教育・保育環境を目指します。

また、夏休み期間中、児童の居場所として重要な役割を担っている児童センター・児童館について、猛暑でも熱中症の心配なく十分に遊べるよう、7館全ての遊戯室に空調機を設置します。

新たな学校給食センターの建設については、みなと公園内を建設予定地とし、令和6年9月の供用開始を目指し、基本計画の策定に着手します。